

入場無料

富岡市内出土品展

よみがえる! とみおか

2019 2/8(金) ~ 17(日) 9:30 ~ 17:00
※12日(四)は休館日

富岡市立美術博物館 市民ギャラリー及び創作室

遺跡
説明会

9日(土)・16日(土)
14:00~ (創作室)

クイズでバッジをゲット!

クイズに答えて缶バッジをもらおう

展示内容

- 松義西部地区遺跡群「大牛中原遺跡」「大牛下原遺跡」(縄文、弥生、平安)
- 宇田・一ノ宮地区遺跡群(縄文、平安、中世) ● 「原田篠遺跡」(古代)
- 「史跡旧富岡製糸場」(近現代) ● 「葦塚製糸場跡」(近現代)

うだ いちのみやちく いせきぐん 宇田・一ノ宮地区遺跡群

うだ えげはらいせき うだなからだ いせき
(宇田恵下原遺跡・宇田中寺田遺跡)

丹生川左岸に位置しています。平成30年5月～8月にかけて発掘調査を実施し、縄文時代の竪穴住居跡、平安時代～中世の水田跡等を確認しました。

■縄文時代

約6500年前頃の竪穴住居跡1軒を確認しました。規模は約4m×約4.4mで、柱穴が竪穴の壁際にそって住居を囲むように設けられていました。住居内からは、土器片や石器などが出土しています。縄文土器は関山式と呼ばれているもので、文様や形がバラエティ豊かです。また、住居の真ん中、やや西寄りに炉があります。炉のそばでは、灰をかき出してためた穴を確認しました。入り口にあたる部分は、梯子をかけた痕跡から東側にあったと考えられます。

■平安時代～中世

幅1.2m以上の大畦や幅0.6mの畦が見つかりました。畦は、天仁元年(1108年)の浅間山の噴火の際降った軽石を除去して構築されています。一枚の水田区画の大きさは東西方向で6m～11mありました。現在の水田の東西幅の4分の1程度で、やや小さめの水田です。見つかった畦の方向が東西南北に整然としていること、大畦の東、1町(109m)くらい離れた位置に水路が見つかっていることから、奈良時代に行われた条里制の影響を受けた水田跡と考えられます。

はら たじの いせき 原田篠遺跡

鐺川右岸に位置しています。平成30年9月～10月に発掘調査を実施し、古代の大型掘立柱建物跡、竪穴住居跡、溝跡、柱穴列等を確認しました。

■古代

調査区の南側で、梁行3間(約5.4m)、桁行6間(約11.7m)、各柱穴径約1mの大型掘立柱建物跡を1軒確認しました。その規模から、公的施設の意味合いを持つ建物跡の可能性が考えられます。この建物跡の北側では、1200年前頃の竪穴住居跡2軒や掘立柱建物跡1軒が見つかりました。大型建物跡との間に、溝跡や柱穴列が確認されており、大型掘立柱建物跡とその他の建物を区画する意図があったと考えられます。

しせききゆうとみおかせいしじょう 史跡旧富岡製糸場

平成30年度の発掘調査は、乾燥場を中心に行われています。展示では発掘調査の成果や、主な出土品を紹介します。

■乾燥場

繭を乾燥させるための施設です。様々な増改築を経て現在の建物配置になっており、現在では大きく分けて繭扱場・乾燥場南棟・乾燥場西棟の3箇所構成されています。発掘調査したのは主に繭扱場と南棟の内部です。

繭扱場では、現在の表層であるコンクリート面をはつり下部の構造を見ることで、繭扱場の変遷を明らかにすることを目的として調査を行いました。これまでの調査で、今まで知られていなかった溝状遺構や、現在の表面より下のコンクリート土間面などを確認することができました。

乾燥場南棟では、現在設置されているものより古い乾燥機の痕跡と思われる遺構を確認しており、現在慎重に検討を重ねています。



新たに確認された溝状遺構



前身の乾燥機の痕跡と思われる遺構

松義西部地区遺跡群

おおしなからはら いせき おおしもはら いせき
(大牛中原遺跡・大牛下原遺跡)

両遺跡ともに高田川の北側河岸段丘上に位置し、平成25年度から27年度にかけて発掘調査を実施しました。大牛中原遺跡では縄文時代の竪穴住居跡や土坑、弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴住居跡、奈良時代の大溝や土坑、平安時代の竪穴住居跡や土坑墓等を確認しました。大牛下原遺跡では縄文時代の竪穴住居跡や土坑、弥生時代の土坑、平安時代の竪穴住居跡を確認しました。

■縄文時代

大牛下原遺跡では、約7000年前頃（早期）の土坑群を確認し、うち1基からは器形が確認できる土器が出土しました。大牛中原遺跡では約6500年前頃（前期）の竪穴住居跡を1軒確認しましたが、人々が本格的に集落を形成するのは約6000年前頃からと考えられます。この時期には両遺跡で合わせて15軒の竪穴住居跡や土坑を確認しました。

約5500年前頃になると大牛中原遺跡では38軒の竪穴住居跡からなる集落が形成されますが、大牛下原遺跡ではこの時期の集落は確認できませんでした。

約5000年前頃（中期）には竪穴住居跡が激減し、両遺跡で数軒を確認した程度になりますが、約4500年前頃には両遺跡で再び集落が形成され、合わせて26軒の竪穴住居跡や土器が多数出土した土坑を確認しました。

約4000年前頃（後期）には大牛中原遺跡で小規模な集落が形成され、8軒の竪穴住居跡や土坑を確認しました。中には床の一部に石を敷いた敷石住居も存在します。

しかし、これ以降の両遺跡では縄文時代の遺構や遺物が確認できず、松義西部地区遺跡群での縄文時代の人々の営みは終わりを迎えたと考えられます。



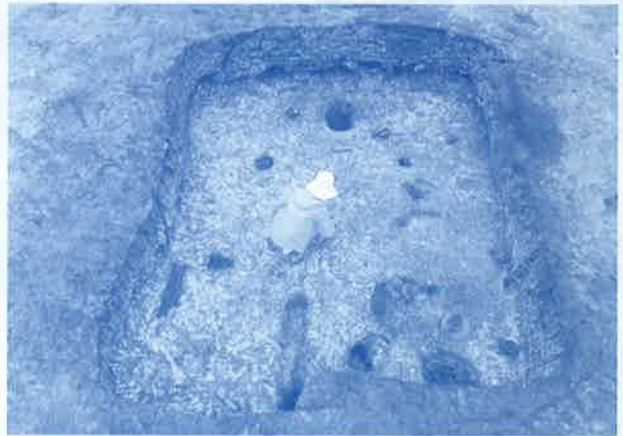
約5500年前頃の住居跡(3軒が重なり合う)

■弥生時代～古墳時代

大牛下原遺跡では、市内で出土例の少ない約2000年前頃の土器が土坑から出土しました。

大牛中原遺跡では約1800年前頃の竪穴住居跡を8軒確認しました。住居跡は遺跡の中央から東側にかけて分布し、2、3軒ずつまとまっていることから、小規模な集落が遺跡内に点在していたと考えられます。竪穴住居跡のうち1軒からは、小さなガラス玉が出土しました。

また、大牛中原遺跡では古墳1基を調査しました。古墳は既に壊されていましたが、出土した土器などから、約1400年前頃に作られたと考えられます。



約1800年前頃の住居跡

■奈良・平安時代

奈良時代には、遺跡のある台地上に馬を放牧するための牧の区画溝と考えられている大規模な溝が全長約13kmにわたって形成され、大牛中原遺跡でもその一部を確認しました。

また、約1100年前頃から1000年前頃につくられた竪穴住居跡を両遺跡で確認しました。

大牛中原遺跡では竪穴住居跡と同じ時期につくられた土坑墓1基を確認しました。出土遺物から、木の棺に遺体を納めて埋葬したとみられます。棺や骨は残っていませんでしたが、副葬品と考えられる土器や木の棺に伴うとみられる鉄釘が出土しました。



約1000年前頃の土坑墓

にらづかせい し じょうあと
葦塚製糸場跡

史跡旧富岡製糸場正門の東50mに位置します。

平成28年12月から平成30年10月まで、3次にわたる発掘調査を実施しました。その結果、富岡製糸場を模範として、明治9年に葦塚直次郎が設立した民間器械製糸場であることが確定しました。直次郎は富岡製糸場建設の際に、煉瓦・瓦の製造や資材調達を請け負い、開業後は工女等の箇所運営を任されています。

■近現代

現存する「城町通り北長屋」が製糸場跡で、東側の平屋建物が主要工場と考えられる繰糸所兼揚返所です。

ほぼ全面が煉瓦敷で、当時の工部省が製作した鉄製の繰糸器24台と揚返器12台が設置されていたものと想定しています。煉瓦床の下には、器械重量による沈下を防止するため、137cm間隔で根石が埋設されています。

建物の北側では、ボイラー施設と推定される半地下式煉瓦遺構を確認しました。平屋建物の西側に接続する二階建物は、事務所や繭の乾燥・貯蔵、出荷作業等の施設と推測されます。

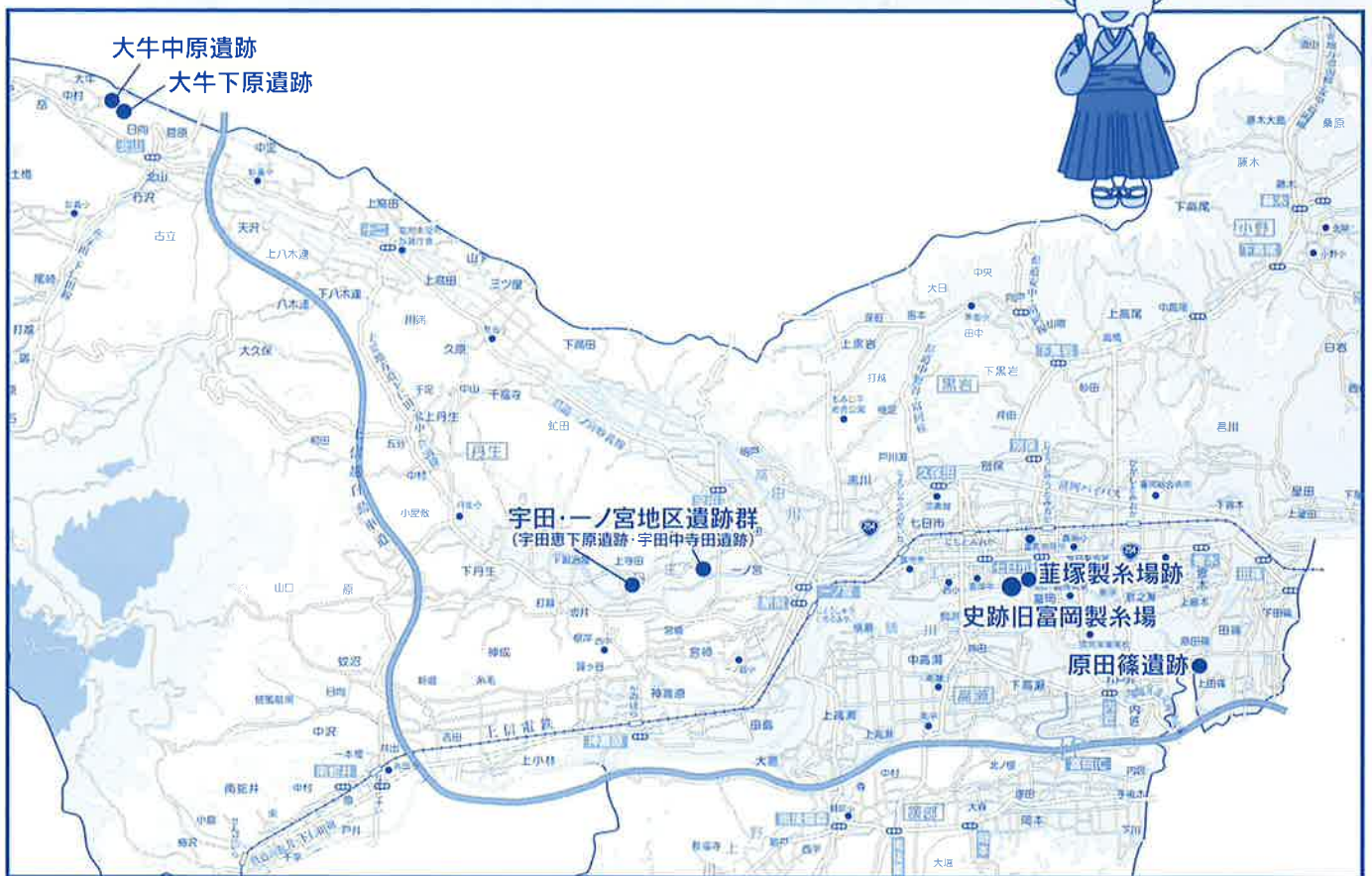
建物内外からは大量の煉瓦や瓦をはじめ、「葦塚」と書かれた皿や煮繭鍋、糸鉤などが出土しました。

当時の県内で富岡製糸場を模範としたのは葦塚製糸場のみであり、全国に分布する明治初期の民間や県営の器械製糸場のうち、主要建物と遺構が現存する唯一の事例と思われます。



煉瓦床の痕跡(煉瓦下地の砂漆喰)

遺跡の位置



富岡市教育委員会 文化財保護課

TEL 0274-62-1511(内線2134)